

2017年（平成29年）の貧酸素水塊 まとめ

2017年の底層の溶存酸素量分布を図1に、縦断ラインにおける貧酸素水塊の規模を図2に、年最大規模の経年変化を図3に示します。

貧酸素水塊の初確認は5月8日で、初確認の時期としては例年並みでした。初め内湾北部の一部で発生した貧酸素水塊は、5月18日には内湾北部の広範囲に分布しました。6月1日の観測では内湾北部から盤洲沖や横浜沖まで分布域が拡大し、水深20m以深では溶存酸素量（以下、D0）1.5mL/L以下と強く貧酸素化しました。この時期以降、成層発達に伴い貧酸素化が進み、6月12日の千葉県側はD0 0.5mL/L以下のほぼ無酸素状態となりました（図1）。

鉛直縦断面の貧酸素水割合を規模とすると、5月から7月にかけて規模は徐々に拡大し、7月18日に今年の最大規模（43%）となりました（図2）。最近10年間の年最大規模と比較すると、本年の規模は7番目の大きさで、それほど大きくはありませんでした（図3）。

7月下旬以降は、湾奥での青潮発生や8月の短日照等の影響で、貧酸素水塊の規模は7月18日以上には拡大せず、9月13日に大きく縮小し、11月1日に例年よりやや早く解消を確認しました。

千葉県水質保全課によると、青潮は8回発生しました（6月14～15日、6月19～21日、7月27～8月1日、8月3～7日、8月16～21日、8月28～29日、9月1～4日、10月16～20日）。

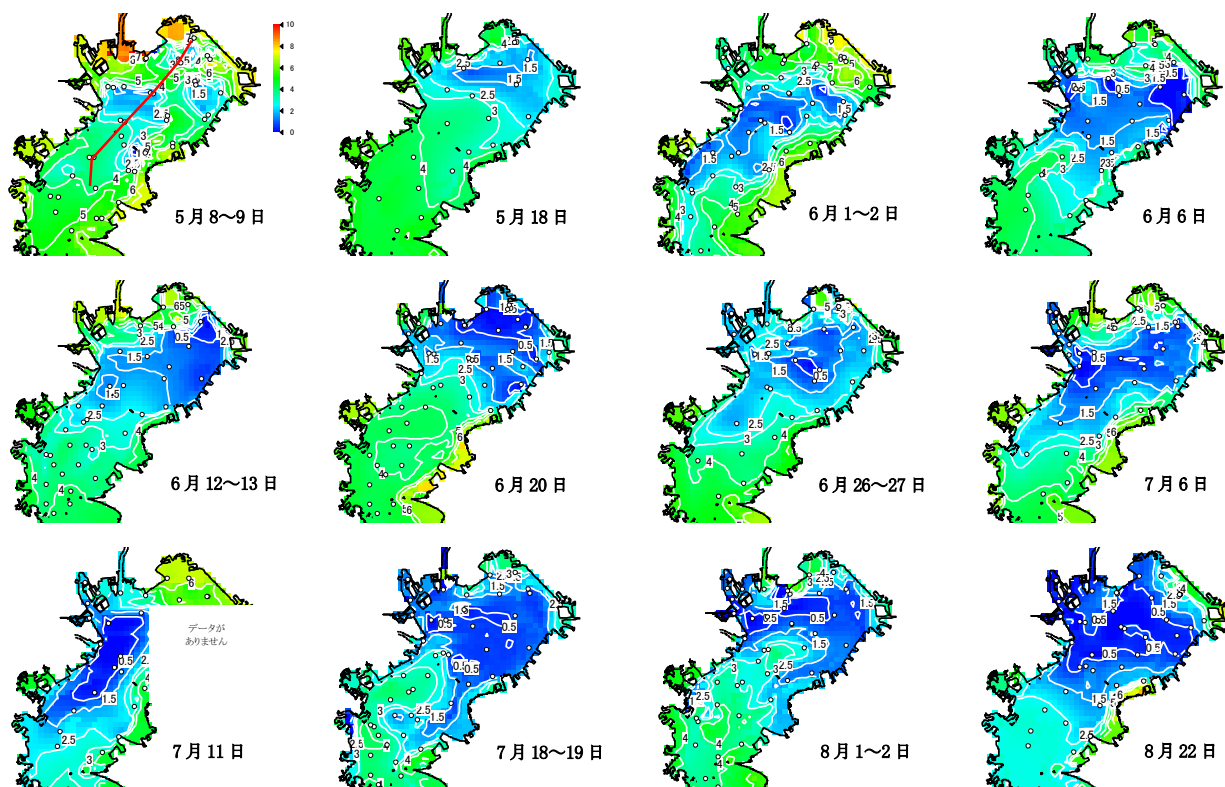


図1 底層の溶存酸素量分布 等値線の単位はmL/L 赤線は縦断ライン

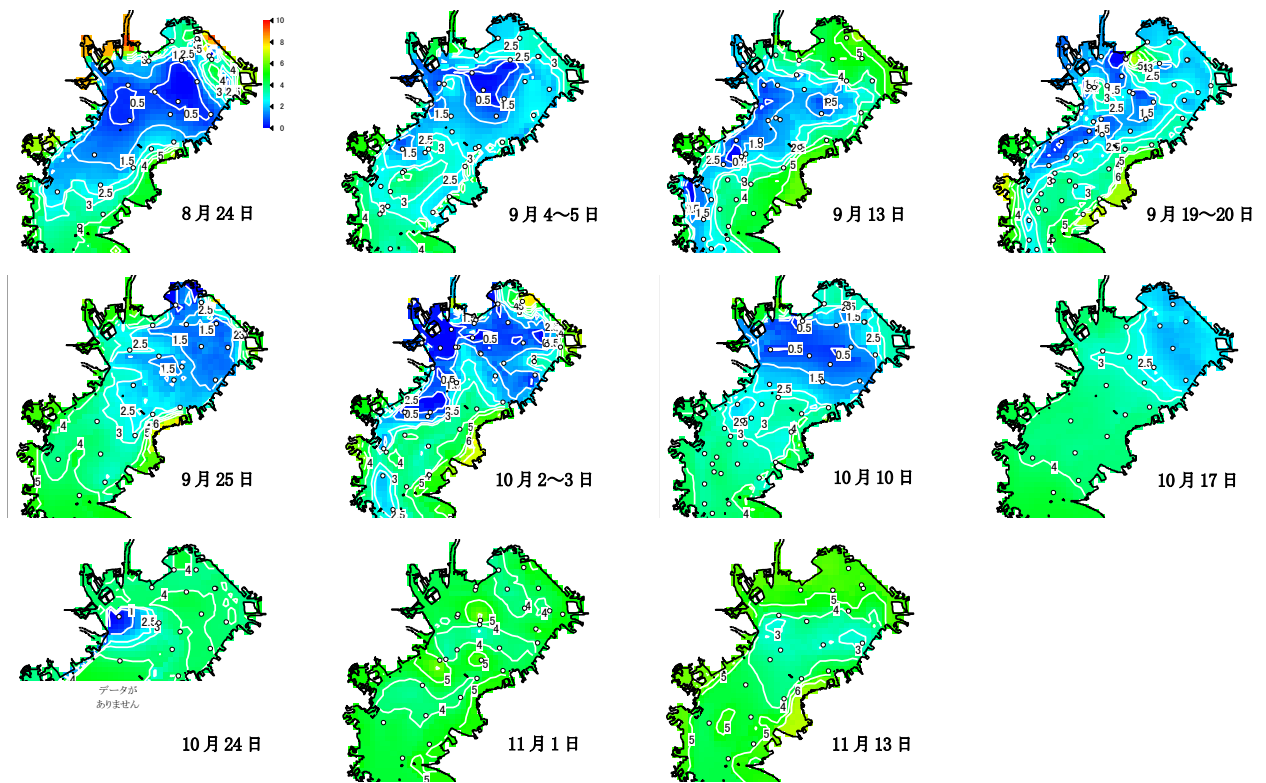


図1 底層の溶存酸素量分布 (続き)

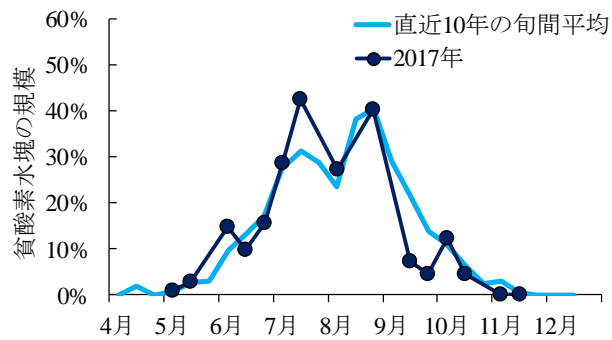


図2 縦断ラインにおける貧酸素水塊の規模

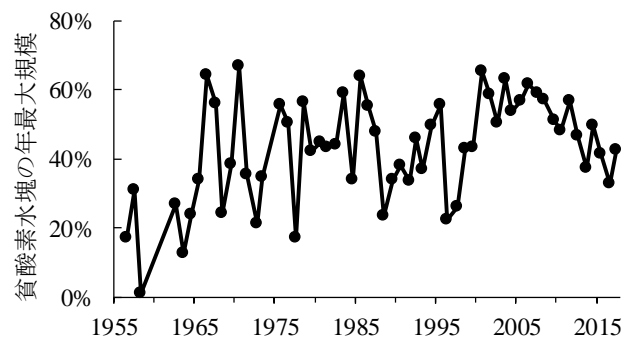


図3 貧酸素水塊の年最大規模の経年変化